

横長画面右利きレイアウトdataボックスのオーバーフロー処理 (layout_SB1_n2)

■dataのHeight設定とオーバーフロー処理

新規作成 2024.03.15
最終更新 2024.06.13

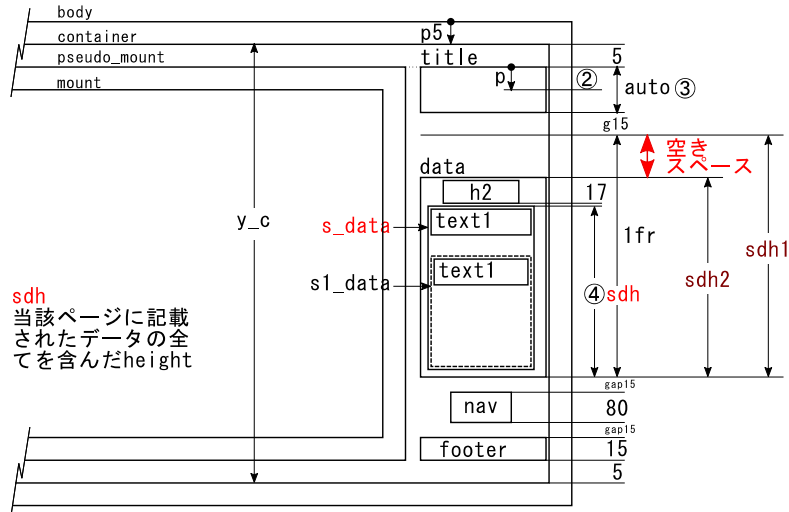


図-1 CASE1 右カラムheightに余裕がある場合

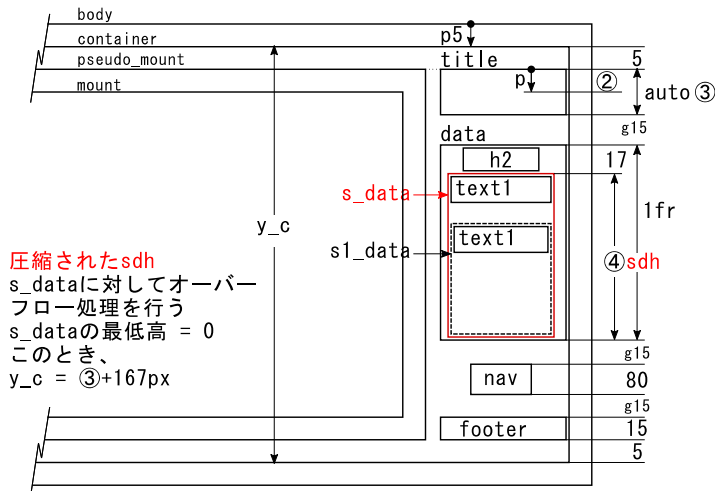


図-2 CASE2 右カラムheightが圧迫されている場合

■右カラムのレイアウト処理手順

(1) 右カラムは、左カラム(写真)をレイアウトした後のcontainerのheightに合わせてレイアウトする。

CASE1: 右カラムが本来必要とする高さ以上にcontainerのheightがある場合：

titleが上揃え、他の要素は下揃えのため、titleとdataの間にスペースを入れて右カラムのheightを調整する。

CASE2: 右カラムが本来必要とする高さ未満のheightしかない場合：

dataの子要素のs_dataボックスに対してオーバーフロー処理を行い、右カラムのheightを圧縮する。最終的に250px程度のheightにまでレイアウトを維持する。

■CASE1とCASE2の判定

- CASE1かCASE2かの判定は、図-1のsdh1 (dataボックスが占有できるheight) と、dataボックスが本来的に持つheight値(sdh2)を比較することによる。

$$sdh1 = y_c - \textcircled{3} - 167 \quad 167=5+15+17+15+80+15+15+5$$

- sdh1 => sdh2 : CASE1、オーバーフロー処理不要
- sdh1 < sdh2 : CASE2、オーバーフロー処理必要

■右カラムのオーバーフロー処理

- CASE2の場合にオーバーフロー処理を行う。
- dataにalign-self:endが設定されているためにdataボックスのオーバーフローは上方向、すなわちh2やtitleに被さる方向に発生する。この場合、overflow:hiddenを指定していても、オーバーフロー処理は行われない。(Gridの仕様?)
- これを回避するためには、s_dataに対して、動的にheight値を設定する。そのheight値はcontainerのheightから逆算して求めたs_dataに許容される最大のheight値。これによって、s_dataのエリアをオーバーしない形でオーバーフロー処理が行われる。ただし、この場合のオーバーフロー処理は1ピクセル単位に行われ、行の下半分が欠けるといような表示になる場合がある。それを避けるため、s_dataに動的に設定するheight値は行高(16px)刻みの値に整正する。

■s_dataの表示可能行数

n : h1の行数

y_c	h1:1行		h1:2行		h1:3行		記事
	sdh	data行数	sdh	data行数	sdh	data行数	
280	68	4	48	3	28	1	280-n×20-25-167
290	78	4	58	3	38	2	290-n×20-25-167
300	88	5	68	4	48	3	300-n×20-25-167
310	98	6	78	4	58	3	310-n×20-25-167
320	108	6	88	5	68	4	320-n×20-25-167
330	118	7	98	6	78	4	330-n×20-25-167